

論文内容の要旨

報告番号	甲 第 号
論文名	Late Quaternary Mammal Faunas Reconstructed from Fossil Records in the Southern Part of the Ryukyu Islands, Japan (化石記録にもとづく琉球列島南部の第四紀後期哺乳動物相)
氏 名	河村 愛
<p>本論文は、琉球列島南部にある宮古島と石垣島の後期更新世と完新世に哺乳動物相を復元し、それに関連した古地理・古環境などの問題を論議することを目的としている。動物相の復元は、それら 2 つの島から産出した第四紀後期の哺乳類化石のデータにもとづいて行った。本論文では最初に、それらの島の地理的背景と地質学的背景を概説した上で、これらの島のすべての第四紀哺乳類化石産地の堆積物の層序と年代を記載し、さらにそれらの産地の化石群集を詳しく記載した。それらの産地の中で宮古島の無名の穴とツヅピスキアブ洞窟、それに石垣島の白保竿根田原洞穴遺跡については、その重要性から、他の産地より広範で詳細な記載を行った。</p> <p>動物相変遷についての分類学的な根拠となる哺乳類化石の系統分類学的記載は、主に無名の穴、ツヅピスキアブ洞窟、白保竿根田原洞穴遺跡から産出した化石を対象に行った。記載した種類の中で、シラハラネズミ属の新種は石垣島固有の絶滅種であること、イノシシ属は大小 2 種類に分けられることなどが明らかになった。</p> <p>各化石産地と産出化石の層位学的、年代学的、分類学的なデータにもとづいて、主に後期更新世後期から現在にかけてのそれぞれの島での動物相の変遷を復元した。いずれの島でも後期更新世後期と完新世の動物相は島嶼型のもので、それらを相互に比較すると、土着の非飛行性の要素がまったく異なっていることが明らかになった。また後期更新世の動物群の非飛行性の種類では、それらの島々のものと沖縄本島、台湾、中国北部、中国南部のものが互いに大きく異なっていることも明らかになった。これらのことは、宮古島と石垣島が後期更新世と完新世を含む長い期間、互いに海で隔てられ、さらに他の地域からも隔てられていたことを示す。</p> <p>宮古島や石垣島の後期更新世や完新世の堆積物から知られる土着の非飛行性哺乳類の祖先の多くは中期更新世後期に一時的に形成された陸橋をとって台湾から渡来し、陸橋消滅後、これらの島々の非飛行性哺乳類は現在までずっと孤立していた。これらの島々では、後期更新世後期に人類が出現するが、彼らは船や筏を用いて渡来し、上記のイノシシ属はこれら人類によって持ち込まれたと考えられる。哺乳類の絶滅がこれらの島々では 2 回起っているが、それは直接的または間接的に人類の活動によると考えられる。</p> <p>宮古島では後期更新世後期の MIS 3 から MIS 2 にかけて動物相が顕著に変化し、それは森林優勢の植生から草原優勢の植生に変化したことによる。しかし MIS 2 から MIS 1 にかけては目立った変化がないことから、これらの島々で更新世／完新世境界での気候変化は穏やかなものであった可能性が考えられる。</p>	